

# 全科協ニュース

URL <http://jcs.m.kahaku.go.jp/JCSM/>

全国科学博物館協議会 東京都台東区上野公園 国立科学博物館 ☎110-8718 Tel.5814-9857・9858 Fax.5814-9898 平成12年9月1日発行（通巻第174号）

## 特集 触覚 聴覚にうったえる展示

### 上野動物園の視覚障害児指導プログラムとその運用

恩賜上野動物園普及指導係長 浅井 ミノル

上野動物園の視覚障害児向けのプログラムというと、子供動物園で行っている指導が中心になります。子供動物園の係長経験わずか2年の私が記すのでは十分ではありませんが、どのような活動を行っているのか、また活動の中でどのような事に出会うのかを紹介したいと思います。

#### 1. サマースクール

##### はじめ

上野動物園内にある子供動物園は昭和23年に日本で初めて設立されたのですが、その翌年から夏休み中の企画として児童を対象としたサマースクール（設立当時は“サマースクール”と呼んでいました。）を始め、内容は少しずつ変化していますが今も続けられています。昭和40年のサマースクールから、視覚障害・聴覚障害・知的障害の児童向けのコースを設けています。このコースは昭和46年から視覚障害児のみを対象とすることになりました。この変更の事情として当時の子供動物園の係長の遠藤悟朗は「視覚障害児だけは、動物認知の過程で未解明の分野が多く、また、素材提供の準備などで、異なる点の多いことを改めて感じさせられた」と記しています。私は、サマースクールの障害児クラスは1日だけですので、障害の種類も程度も異なる児童をひとつのクラスで指導するのは、かなり無理があったのではないかと想像しているのですが……。以来、子供動物園のサマースクールの障害児クラスは視覚障害児を中心に進められてきました。

##### サマースクールの今

さて、今の子供動物園のサマースクール・視覚障害児向けプログラムにふれてみましょう。盲学校と弱視学級の小学生の児童を対象に、それぞれ1日ずつ実施しています。

実施者側から言わせると、ここにまず困難が生じます。一般の小学校対象のサマースクールですと、1・2年クラス、3・4年クラス……と分けていますし、毎年多くの応募があるので、2年続けて参加する児童はめったにいません。しかし盲学校や弱視学級から毎年参加してもらおうと、一人の子が6年間、毎年サマースクールに参加することだって、理論的にはあり得るのです。毎年プログラムの内容を変えなければなりません、これは困ったことです。できることなら毎年テーマ（動物の種類）を換えて4～5テーマを用意したいと考えているのです。このローテーションならば6年間の小学校生活の間で、低学年の時に経験したテーマを卒業間近に再度経験することになりますが、本人の知識も感じ方も成長とともに変化してきますので、何とかかなりたちそうです。この何年かについていえば、ゾウ（アジアゾウ）、キリンそして今年のテーマはペンギンです。どの動物でも利用できるわけではありません。視覚障害児が対象ですから、何らかのかたちで「触れる」ことができるのが必須の条件なのです。それを考えると、特に野生動物で利用できる、安全な種類は限られています。また、飼育担当者がいかに動物を馴致して（人に慣らして）いるか、という問題にもつながります。指導の目的からは人に慣れていてくれるのはありがたいのですが、動物園で野生動物を野生動物らしく飼う、という必要もあるのです。

サマースクールの準備は、前年の秋ころから盲学校、弱視学級担任会の代表の先生と打ち合わせを行って進めます。参加児童のクラス分けや名簿の作成などは先生に多くをお願いいたします。特に全盲の児童の場合には、一人に補助の人員を一人ずつつける必要があります。引率の先生では足り

ない分を、動物園のシルバーガイド(高齢者ボランティア)、アルバイトなどを動員し、誰がどの子を受け持つのか割り振りします。児童の励みにもなると思い、サマースクールの終了証をプリントして作成します、これを盲学校に送り、余白に点字を打ち込んでもらいます。弱視児童で点字が不要の場合にはこの部分を省略できるのですが、この判断は日ごろ児童をよく把握している先生方でないとわかりません。学校と動物園の連携の必要を痛感する場面です。

## 記念品

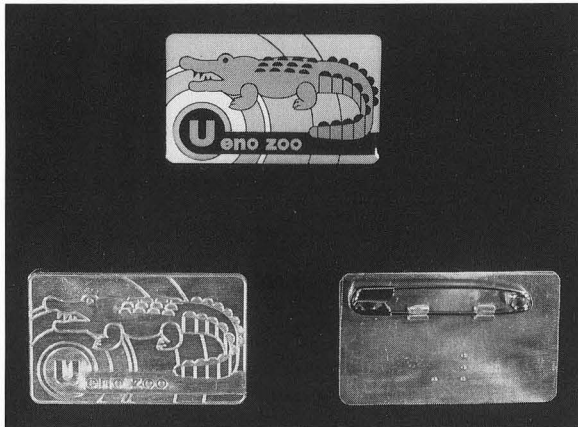


写真1

サマースクールでユニークなものにサマースクール参加記念バッジ(写真1)があります。一般児童向けのバッジはもう何10年も製作しているのですが、この何年か、特注で写真で紹介するようなものをつくっています。一般向けバッジの製造工程の途中、動物の図案が浮き彫りになった段階のアルミニウムのプレートに分けておき、裏に点字で(もちろん盲学校の先生に協力をお願いして)動物名を表示しています。

## 2. 団体指導での障害児指導

### はじめ

子供動物園では、夏休みの7・8月と冬休みの12・1月以外の季節に、いろいろな活動を行っています。一般の来園者向けに行う、定番といってもよい「ウサギやモルモットのふれあいコーナー」(写真2)をはじめ「家畜教室」「糸つむぎ教室」などの催しと、遠足で来園する小学校・幼稚園の団体向けの予約制の指導プログラムがあります。中に障害児のクラス向けのコースも設定されているのです。私にいわせてもらえるなら、サマースクールの障害児クラスは、年に一度の華やかなイベントに近いものです。児童の指導としては、地味で小規模でも、このような日常の活動がより重要であると思います。

このような団体向けの指導がいつごろから始められたのか、正確なことはわかりませんが昭和40年頃から夏期以外



写真2

に来園する団体の指導を行っています。おそらく試行錯誤の時期があったのでしょう。子供動物園に保管されている指導の記録を調べたところ、昭和35年5月に沼津市の盲学校の中学3年生の生徒17名を指導として受け入れているところまで確認ができました。正式なプログラムとして成立する前から、障害児向けの指導も試みられていたことがうかがえます。

### 障害児指導の今

現在の障害児指導を簡単に紹介すると、対象は幼児～中学生で、上記の子供動物園の活動期間中の毎週水曜日の午前中に実施しています。事前に実施の日時や児童の人数などを電話で確認し、予約を受けます。対象は視覚障害に限らず、知的障害、肢体不自由などにわたります。障害児クラスに限っては、事前指導と呼んでいます。担当の先生に事前に来園していただき、職員と打ち合わせをお願いしています。以前は一般の幼稚園・保育園・小学校(低学年)向けの指導でも、この事前指導を必須としていましたが、より利用しやすくしようと、今は電話の予約だけで受け付け、障害児クラスのみ行っています。

現場での経験からいえば、障害児クラスの事前指導はとても重要です。参加する児童の障害の種類や程度がさまざまなのです。安全に、しかもより身近に動物にふれるためには、細かい情報が必要なのです。先生と対話することで、どこまでふれあいの機会を提供できるか、担当職員にも相談しながらまとめることもあります。

単一の障害児の指導と思っていると、重複障害児が加わっている場合があります。これも当方から念を押して聞かないと、先生方から教えてもらえない場合が多いのです。たとえば車椅子を使用する場合、家畜を放飼している牧場には砂を敷いてあり、中に入ると轍をとられて立ち往生し

ます。この場合、付き添いの人員が十分にいて短時間なら抱いて移動できるか、児童の障害の程度や体重によりそれが不可能な場合には動物の方を動かすことができるか、そのために必要な職員が立ち会えるか（土日営業の動物園ですから、職員は交代で休みをとり、毎日同じ人数が出勤しているわけではありません）等々、選択肢は多く、先生との密な情報交換は欠かせません。

### 試みと指導の例から

問い合わせの電話に対応していると、こちらで指導の日として設定し、ご案内している水曜日に合うようにスケジュールを調整できないケースが間々見られます。障害児指導を少しでも利用しやすくできないかと思ひ、指導を「原則水曜日だが、受け入れ可能ならば他の日も応談」としました。毎週火・木曜に行う一般の小学校・幼稚園の利用には、指導を手伝うアルバイトを手配しているのですが、障害児の指導ではこのような補助はありません。職員だけで、業務をやりくりして対応することになるため、これは当方にとっても少々冒険でした。幸い(?)爆発的に利用が増えることもなく、少しずつ伸びているようです。……というわけで、他の業務との関係で、どうしても対応が困難な場合にはお断りせざるを得ない場合もあります、どうかご理解ください。

障害児クラスの指導を受け付けていて気づいたことは、特に盲学校に限って東京から離れた地域の学校の利用が最近目立つことです。修学旅行で上京・来園するので、少しでも動物にふれあいさせたい、とのご要望をいただきます。はじめ、わけがわからなかったのですが、どうやら盲学校の先生方の中でネットワークがあって「上野動物園に行けばこんな活動をやっている」といった情報が飛んでいるようです。おかげで秋田県や新潟県の盲学校からも来園した生徒を受け入れています、新潟県からは高校の生徒1名に引率の先生2名が付き添って来園、おそらく団体指導の最小参加人数と信じています。このように参加校の地域が広がると、事前に来園して打ち合わせてくれ、とも言えません。電話で密に連絡をとって、遺漏のないように努めます。

障害児の指導に限った話ではありませんが、指導の時間も内容も、十分に打ち合わせをして、来園の当日を迎えます。待っているわれわれ職員（と動物）の心配をよそになかなか現れないクラス……これは引率の先生のリサーチ不足です。14ヘクタールの広さを誇る（?動物園としては狭小な部類なのですが）上野動物園では、表門から入園して

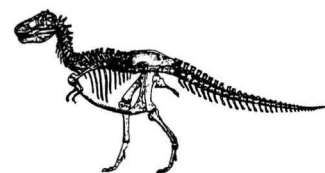
も子供動物園まで歩くと、10分近くかかります。まして園内の地理に不慣れな先生が、何事にも時間を必要とする障害児を率いて歩くのでは……。人はまだ、待つこともできますが、動物に我慢せよとはいにくいのです。

指導の内容も少しずつ変化があります。子供動物園の定番は、やはり小型で子供にも扱いやすいウサギ・モルモットにふれるコースなのですが。最近は区や市でも小規模な動物園や類似の施設を設けるところがあり「ウサギ・モルモットは学校の近くの動物園にいますから大型の動物にふれあいたいと思います」とのリクエストもあります。

### 最後に

子供動物園の広場で放し飼いにしているヤギやニワトリたちは、夕方早めに寝部屋に収容し、動物たちが広場に糞の掃除を始めます。季節にもよりますが、この時間に広場で清掃作業をしていると、よく見かけるのが広場の入り口ゲートに立つ人影。様子を見てから近づき「実踏（実地踏査：遠足の事前の下見）の先生ですか」と声をかけると、まあ大げさに言えば5割以上の打率で当たります。どうせ来てくれるのなら、忙しい夕方ははずして来れば、指導に使う動物を見せたり、細かい注意も現場でできるのに……と思うのですが、聞くと学校の業務が忙しくて、動物園に着くのが閉園時間ぎりぎりになるようです。ある障害児学級の先生が、ウイークディは忙しくて都合がつかない、ということで日曜日に事前指導に来ていただいたことがあります。事務室で打ち合わせをしていると「外に連れを待たせている」というので室内に呼んでもらったところ、なんと先生ご自身のお子さんを連れて見えていたのです。仕事と家庭サービスの苦肉の妥協点というのでしょうか。「ゆとりのある教育」といいながら先生方のゆとりのない忙しい状況を実感した次第です。

※世界の化石・  
鉱物・恐竜・化石  
人類・動物骨格  
標本及び模型の  
輸入専門業者



ティラノサウルス・REX

株式会社 **ゼネラルサイエンス**  
コーポレーション

〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴビル802  
TEL 03 (3583) 0731代表 FAX 03 (3584) 6247



# 視覚障害者も楽しめる博物館にするために

横浜訓盲学院教諭 藤原 晴美

## はじめに

私が初めて一人で国立科学博物館（以下“科博”）へ行ったのは1973年5月、同館の教育普及活動“天文学普及講演会”を聴くためだった。子どもの頃から強度の弱視だった私は、その頃にはもう全盲になっていた。

以来、ほぼ毎月通っているのだが、科博がJR上野駅から徒歩で数分以内という距離にあることが、それを可能にしてくれている。私はこの原稿を書いている気づいたのだが、交通アクセスの良さも、障害者の博物館見学を可能にする大事な条件ではないだろうか。

## 録音テープでも情報の提供を

博物館の情報を得る上で、各館が開設しているホームページは有効であり、私も重宝している。もちろん、視覚障害者にも閲覧できるような設計になっている必要があるが。

しかし、総ての人がインターネットにアクセスできる環境を持っている訳ではない。

視覚障害者への情報提供の一例としては、科博が行っている“国立科学博物館ニュース”（月刊）の録音テープ版の貸し出しがある。同館の教育ボランティアの方々が、毎月発行される原本を朗読・録音しているもので、1988年からずっと休まずに続けられている。これによって特別展などの日程を予め知ることができるし、展示フロアを見学するときのガイドブックとしても役立つ。

私はこのような録音テープ版の広報誌を発行する博物館が増えてほしいと願っている。

## パンフレット類の点字化

私たちが博物館を訪れたときには、その館の紹介や催し物のお知らせなどのパンフレットを入手できる。これは見学のガイドブックになるばかりでなく、展示資料の写真が掲載されていたりして、コレクションの対象としても楽しめるものである。

しかし、この種の印刷物の点字版や拡大コピー版を用意している博物館は少ないように思う。茨城県立自然博物館が見学のガイドブックの点字版を製作して、来館した視覚障害者に貸し出していることは大いに評価できる。他の博物館もこれに倣っていただきたいと思う。

館内にある総ての印刷物を点字化したり、拡大コピー版

にする必要はない。館の紹介（手で触ってもわかる簡単な館内図を添付する）と、来館した当日行われている催し物の案内だけで十分である。

なお、一度作成したからといって安心せずに、原本と同じタイミングで更新することを忘れないでいただきたい。そして、来館者に“貸し出す”のではなく、原本のパンフレット類同様、“配布する”方式の方が良い。そのために必要ならば、最近増えて来た“身体障害者の入館料の減免措置”は廃止して差しつかえないと思う。

## 触れない資料のレプリカを用意する

入手するのが極めて困難だったり破損しやすいなどの理由で、博物館には手を触れられない資料が多いが、それらのレプリカを用意してはどうだろうか。

レプリカの便利な点は、作成するときには拡大や縮小が自由にできるということである。恐竜の骨格の化石のように大きなものや、アリの標本のように小さなものは、触覚による観察が難しい。精巧なレプリカはそれを可能にしてくれる。

科博の新館地下1階に、恐竜の下肢の骨格のレプリカがある。ヒトの足と比較しやすいようにほぼ同じサイズに作られているので、触覚でもその全体像と特徴を捉え易い。

## 植物標本は造花を利用する

手で触れて観察したいと思っても、いろいろな制約から不可能なものの中に植物標本がある。

私は、これもレプリカを作って実物が納められている展示ケースの傍らに置いて、見学者が自由に触れるようにしていただきたいと思う。時折見かける合成樹脂製の造花の中には、花の色合いといい、葉や細い茎の手触りといい、本物の植物と見分けがつかないほど精巧なものがある。その造花製作の技術を、植物標本のレプリカの製作に応用するのである。

## 剥製標本は手で触れるように

鋭い牙や爪を持つ動物にも安心して触れるという点で、動物の剥製標本は、視覚障害者にとっても嬉しいものである。ただ、製作や保管・管理に難しい問題が多いからなのだろうが、水生動物の剥製標本、それも手で触れるものが極めて少ないのは残念なことである。



この剥製標本だが、柵やロープの向こう側にあたり、展示ケースの中に納められてあたりする場合が多い。科博の本館にあるヒグマの剥製がその例である。手前の柵のために、展示ケースにさえ一定の距離にまでしか近づけず、弱視者がガラスに顔をくっつけて中を観ることもできないようになっている。以前ガラスに額をぶつけた人がいたための措置とのことだが、万人に向く展示というのは難しいのかもしれない。

神奈川県立生命の星・地球博物館の剥製標本の多くがガラスケースに入れられていないので、私たちは直接手で触って観察することができる。この点では、科博の新館3階の“発見の森”の標本もほぼ同様だが、残念ながらこちらは足場が少し悪い。展示フロアが自然の森をイメージした設計になっているためだと思うが、車椅子利用者や杖歩行の人の見学は厳しいかも知れない。

#### 展示する位置にも注意を

資料（実物標本やレプリカなど）がケースに納められていなくても、そして「触ってみて下さい」という表示があっても、私たちが立つ位置から少し離れているために、ほんの一部分にしか触れないものが案外多い。剥製などが乗っている台の余白部分や解説のパネルがじゃまをしているためだ。子供の手では全く届かないだろうと思われるものも少なくない。

博物館の職員の方々には、見学者が立つ位置に実際に立ってみて、できれば目をつぶって、触覚で十分に観察できるかどうかを確かめてから、資料を展示する位置を決めていただきたいものである。

#### 資料には展示表示を

ある全盲の知人が、私に次のように言ったことがある。「博物館の全部の資料に触れなくてもいいから、ガラスケースの中に何かあるのかだけでも知りたい」

これには私も同感である。科博の隕石のケースの前に立つ度に、ボランティアで点字を貼りに来てもいいのだがと思う。

貴重な資料を納めたケースや写真パネル、手で触れる資料に、“原人の頭蓋骨”のような簡単な点字による表示が欲しい。点字が書ける透明なシールがあるので、それを利用すれば良い。

#### 視聴覚教材の製作にも配慮を

最近では展示フロアで、解説のビデオ教材を視聴する機会が多くなった。たいていはスタートスイッチを押すだけでプログラムが始まるので、機会の操作そのものには何等問題は無い。

ただ、提供されている教材は映像が中心であり、流れて来る音声を聞いているだけでは、内容が理解できないものが大半である。これは視覚障害者にとっては、ガラスケースの中の展示資料と向かい合っているのと同じである。

私が見たものの中では、科博の新館の1階で流れている深海の生物のビデオの音声解説は、比較的わかりやすく作られていた。

視聴覚教材を製作するときには、博物館を訪れる人の中に、視覚や聴覚に障害を持った人もいるのだということを忘れないでいただきたい。教材の試作品を目をつぶったり、音を消したりして試聴してみてもはどうだろうか。

#### デジタルデバイド（情報格差）を生み出さないで

館内に設置された端末を見学者が操作して、博物館が構築したデータベースにアクセスし、そこから必要な情報を取り出すというシステムが導入され始めて来ている。

これが視覚障害者にとって新たなバリアになっている。端末からの入力にタッチパネルが採用されていたり、画面に表示される情報の音声によるフィードバックがないために、私たちには全く利用できないのである。

(1)見学者用端末には、キーの形や配列が手で触ってもわかるようなキーパットを用意して、ポインティングデバイスからだけでなくキー入力によっても、項目の選択やデータ検索などを可能にする。

(2)スクリーンリーダー（画面読みソフト）や音声化ブラウザ（web閲覧ソフト）を組み込むなどして、操作画面の情報や検索結果などを、音声でも出力できるようにする。

上記のような点を考慮してシステムを設計し、博物館という社会教育施設が“デジタルデバイド”を生み出さないようにしていただきたい。

#### 終わりに

私がお訪ねすることができた博物館は極めてわずかです。乏しい体験を基にこれを書いたために、評価が偏ってしまいがちになったことをお詫びします。

# 体験型の展示とバリアフリーの考え方

“来るべき芸術”のためのワークショップ・代表 石黒 敦彦

## 視覚情報の優位

今日、科学展示全般が、「視覚情報の優位」のもとに企画されていることは疑い得ない。

博物館における点字解説の有無、という意味ではなく、企画者側にとって視覚展示以外の表現世界が視野に入っていないこと、またそれを自省する場と機会がなかったことを指摘しても、決して言いすぎではあるまい。

近年、美術館、科学博物館などに対して「参加体験型」の展示の開発を急がせる動きが目立っているが、五感や体勢感覚などを通して体験する展示が増えるにつれて、バリアフリーな展示設計への要請も強まるだろう。この両者は不可分な関係にあるからだ。バリアフリーという場合、車イス対策、点字・音声情報の充実などは、館の設計段階において構想されるようになりつつあるが、それらは、設備面からのアプローチにすぎない。視覚障害、聴覚障害などを持つ人々の「知的好奇心」の在り方について、真剣な調査が行われた例はごく少数にとどまる(注1)。

ここで言う「知的好奇心」とは、障害をもつ人同士がどのようにお互いにコミュニケーションをしあい、知的な楽しみや刺激を求め、どのようなこと(展示)に興味を持ち、ミュージアムをどのように「利用」したいと思っているか、などを、とりあえずは指すことにする。

科学展示ではないが、長年視覚障害者の芸術活動を支援してきたギャラリー TOM の標語「私たち盲人にもロダンを見る権利がある」は、障害の有無を超えて普遍的な、知的探究心、芸術への欲求が存在することを示している。

それゆえ1つの科学博物館が「参加体験型」の展示をメインにした場合、「私たち、盲人にも宇宙史を知る権利がある」というリクエストに対して、正面から応える義務が生じるといえるだろう。ただしこれは、観客の「視覚体験を遮断せよ」という意味ではないし、収蔵品に触れさせることや点字解説の充実のみを言うのでもない。

たとえば、「メビウスの卵展東京展」の例を挙げるなら、毎年来館者の約2%が視覚障害者であるが、その内の半数近くが、かなり高度な「立体・幾何学パズル」の展示のファンである(視覚・聴覚の重複障害の方も含まれる)。彼らは、宇宙物理学の「サーストン多様体」の模型なども、

楽しみながら組み立てる(写真3)。

立体パズルは、晴眼者でも苦手な人が多いことを考えると、その人の視覚の有無と空間構成のセンスは別なのかもしれないという、調査に値する事実が浮かび上がってくる。

こうした事実は、展覧会の運営サイド、作品をつくるアーティスト・研究者に大きな驚きと刺激をもたらしている。また、こうした事例に励まされて、視覚障害者と共同で観客参加型展示物を制作しようという動きも出ている。

## 観客参加型の展示とバリアフリー

前述の文意を誤解して欲しくないが、私は「バリアフリーな観客参加型展示の普及」を訴えているのではない。「観客参加型の展示物には、障害の有無を超える要素が内包されている」ことを知り、その可能性を引き出す知性を、ミュージアムの運営側に求めているだけなのである。

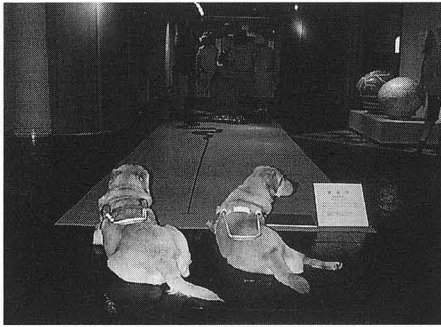
30年前から観客参加型の展示を中心としてきたアメリカ・サンフランシスコの科学博物館エクスプロラトリウムは「芸術、科学、そして人間の知覚のミュージアム」と自らを規定している。89年に、この館の展示物が初めて日本を巡回した際、聴覚障害者の音楽活動を推進している作曲家・佐藤慶子氏は、音響関係の展示とワークショップに触れ、それらが、たんに観客参加型の科学展示物として優れているだけでなく、聴覚障害児の「音楽表現の装置」としても使用できることを指摘された。

これは、その後、佐藤氏らの表現活動に初期の音響学の実験「クラドニの音響図形」が導入される契機となった。

また、展覧会を組織する側にとって、観客参加型の科学展示が、科学啓蒙教育の「道具」として機能するだけでなく、「科学展示でも、アートでも、障害の有無を超えるコミュニケーションの装置でもありうる」多彩な機能を備えていることを、実際に知る機会にもなった。

すでに欧米では、上記のエクスプロラトリウムが、人間の知覚の問題を科学展示として正面からとりあげているほか、80年代に中欧の科学文化運動に影響を残した H・クツケルハウス(注2)は、観客参加型の展示を、科学展示にもアートにもリハビリテーションの補助装置にもなり得る、複合的な可能性を持つものとして構想している。

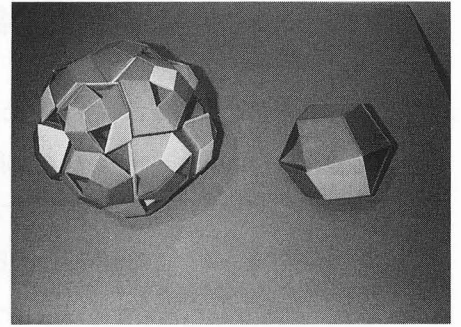
ここでは、バリアフリーが、多数派である晴眼者・健常



「メビウスの卵展東京展」で、ブロンズ作品に触れて観賞している主人公を待つ盲導犬



「記憶」の継時的変化を、長さ9 mのひも状のブロンズ彫刻として表現した「直生子」に触れる



「宇宙のかたち」川村みゆき+井上太郎「サーストーン多様体」の形をしている

者の観賞を補完するものではなく、自然現象という普遍的なものに、私たちがどのように関わり得るのか、という課題に応えるものとしてとらえられている。

### メビウスの卵展におけるバリアフリーの試み

私は、今年10周年を迎える「メビウスの卵展」(注3)など、全国規模のアート&サイエンスの展覧会活動を実践している。また、全国約40館の「参加体験型」を標榜するミュージアムの展示を調査し、99年にはガイドブック形式の『体験型おもしろミュージアム』(フレーベル館)として上梓した。こうした中で、「参加体験型」の展示には、バリアフリーの契機が内包されており、それへのミュージアム側の対応が求められているという認識を持っている。そのような認識のもとに、現在、私たちがメビウスの卵展東京展を中心に行っている「バリアフリー」の試みを、以下に記しておく。

### \*バリアフリー・アドバイザーの導入

視覚障害者などで、展覧会活動に関心のある方をアドバイザーとして任命し、展覧会の構想の初期からスタッフに加えている。障害者にも配慮した展示環境、点字チラシの作成などの他に、展示物そのものについてもコメントしてもらい、その指摘を制作者に伝えることも、一部、行われている。

### \*スタッフによる解説

会場スタッフには特別な訓練は施していないが、展示説明の際に障害のある方への配慮をかなり意識して行っている。会場設営後に、アドバイザーといっしょに会場をまわって、説明の練習を試みるとか、晴眼者と障害者の観客がチームになって会場をまわるワークショップをスタッフが指導するなど、さまざまなきめ細かい対応を行っている。

### \*展示と観客の関係を変える

会場スタッフの説明にあたり、とくに意識しているのは

観賞の仕方である。「作品の前に2人がいる」のではなく「人と人の間に作品(展示)がある」という関係を作る。参加体験型の展示の場合、言語による取り扱いの説明が長時間にわたることは好ましくない。むしろ操作を通して理解することが重要である。スタッフも説明することを通して、その展示の理解が深まる効能もある。

### \*展示の「普遍的」な要素を引き出す

前述の視覚的、聴覚的な障害を持つ方々による展示の楽しみ方に見るように、普遍的な現象を扱った展示物/作品は、障害の有無を越えて、知的な好奇心の対象となりうる。そのことを前提として(たとえば目がみえないから色彩はわからないだろう、などという予断を排して)、普遍的なところに光をあてた展示物の制作、選出、説明をこころがけている。それが、結果としてバリアフリーにつながっていくのである。

ミュージアムも、展覧会も、「参加体験型」と銘打つ以上、視覚以外の感覚によっても科学的に現象を“体験”できる展示物の開発が求められる。その意味で、バリアフリーな展示への要請も、参加体験型の科学展示の流行も、ともに、視覚に偏らない新しい展示とコミュニケーションの在り方を求める動きの、異なった表現と言えるかもしれない。私たちは、宇宙を手で知ることができるだろうか?

注1: 強いて挙げるならば「文化施設のバリアフリー化に関する調査研究」(日本障害者芸術文化協会1997)。

注2: 1900~1984。スイスのアーティスト。「フェノメナ展」(1984)など、後続するスイス、ドイツの科学展示に大きな影響を与えた。

注3: 1991年以来、全国各地で同時開催されている観客参加型の展覧会。「見て、聞いて、触れて、五感で体験するアート&サイエンスの展覧会」として、各地の大学人、芸術家、科学者が出品している。



## 海 外 ニ ュ ー ス

安井亮事務所

**北京に、「ソニー・エクスプローラサイエンス」が開館**

中国・北京の「河原町」といわれる王府井（ワンフーチン）に、体験型科学館「ソニー・エクスプローラサイエンス」が、ソニーによって、2000年10月20日に開館する。同社のパソコンを使ったインターネットコーナーや、ロボット犬「アイボ」を使ったゲーム等が設けられる。その他にエキスポラトリウムからも、体験型展示が登場することになっている。同館が開館する場所は、王府井にできる新しい複合施設「東方広場」にある一階の約1,500㎡のフロア。Sony ExploraScience

**米バージニア科学博物館、大々的なリニューアルを進行中**

1975年に開館したバージニア科学博物館（バージニア州リッチモンド）は、開館以来、1918年に完成した古い駅舎をあまり手を加えずにいたが、このほど情報化時代に相応しい施設に変身すべく、現在総額2000万ドルをかけて大々的なリニューアルを行っている。2001年春の最終的な完成を目指して、段階的にいくつかの機能がオープンされる計画だ。2000年春には最新の機能をもったアイマックス・シアターがオープンし、そして秋には生物多様性を取り上げた常設展「バイオスケープス」(BioScapes)がオープンする。このリニューアルでは、約800㎡の新しい展示スペースと実演シアターが新設されるほか、古い駅の事務室を使った管理部門も現代的なものに一新されることになっている。アメリカでは、バージニア科学博物館のように、空に旅客輸送の足を奪われ、廃駅に追い込まれた駅舎を博物館に再利用されたところが各地にある。代表的なところでは、オハイオ州シンシナティの「シンシナティ・ミュージアム・センター」や、ミズーリ州カンザス・シティの「サイエンス・シティ」等がある。シンシナティ・ミュージアム・センターは、巨大な旧シンシナティ・ユニオン・ターミナル（1933年完成）を再利用し、自然史博物館・子ども博物館・地域博物館から構成された複合施設として1990年に開館した。また、サイエンス・シティも、旧ユニオン・ステーション（1913年完成）を再利用して、総合的な科学館として1999年11月に開館した。

**米バージニア自然史博物館、動物の生態を取り上げたメイズ展を開催中**

バージニア州マーチンズビルにあるバージニア自然史博

物館で、約100㎡の巨大なメイズ<迷路>の形をした特別展「四季の動物たち」が2000年5月13日から開催されている。カラフルなメイズ内の通路の随所に、手で廻せる円盤の形をした質問パネルが設けられ、夏のオオカミ、秋のチーター、冬のバイソンと春の北極グマの生態についての質問が用意されている。子ども達は、これらの質問に解答しながらメイズの最終出口に向かう。9月末まで。Animals For All Seasons

**米バージニア自然史博物館、自然界の謎を取り上げた企画展を開催中**

バージニア自然史博物館は、約2100万点の収蔵品をもった米国の中堅の自然史博物館である。同館では、その豊富な収蔵品を使って、自然界にあるいくつかの謎に迫った企画展を現在開催している。ムカデは本当に百本の足があるのだろうか？ イルカの鼻の場所はどこだろうか？ などといった自然界にある20の謎が用意され、収蔵品を使って説明されている。7月30日まで。20 Questions: Exploring Mysteries in the Natural World

**米ボストン科学博物館で、成長に関する特別展を開催中**

ボストン科学博物館で、このほど人間の成長のメカニズムを紹介した巡回展が開発され、同館での開催（2000年4月5日～9月4日）を皮切りに、全米各地で開催される予定だ。同展では、人間の成長を、社会学、心理学および医学の最新の研究成果を踏まえながら紹介している。また同展は、視覚障害者、聴覚障害者、および車椅子の利用者を考慮したことでユニークである。特にその準備期間の過程で、いわゆる「ユニバーサル・デザイン」と呼ばれる方法を取り入れたことが注目されている。企画委員会では、全盲の障害者と聴覚障害者の市民が委員として参加し、また特別展開催前のいくつかの展示品の試作品の検証では、彼らから多くの指摘がなされ、それらにもとづいて完成品に改善がなされた。Secrets of Aging

**米スカイトレックで、整骨治療に関する特別展を開催中**

オステオパシー (Osteopathy) は、西洋で古代から伝わる治療術の一つであり、日本では「整骨治療」と呼ばれている。古代中国で生まれた鍼灸術と並び、世界の代替医療の代表格である。このほど、スカイトレック（ジョージア州アトランタ）で、西洋医学の陰に隠れがちであるこのオ

ステオパシーを広く紹介する目的の特別展が開催されている(2000年9月末迄)。同展は、カークスビル・オステオパシー大学(ミズーリ州カークスビル)の協力で完成し、スカイトレックを皮切りに、全米各地で開催される予定だ。

#### The Healer Within

#### エキスペリメンタリウムで、「未来の身体」展を開催中

先端技術から見た人間の身体を紹介した特別展「未来の身体」が、デンマークのエキスペリメンタリウムで、2000年4月14日にオープンした。同展では、情報化技術(IT)、遺伝子組み換え技術、ロボット工学の三つのコーナーに分かれ、それぞれの分野から見た人間の身体と、それぞれの科学的な可能性を紹介している。2001年4月末まで。Future Body

#### 館名のネーム・チェンジとそのワケ

欧米の博物館では、館名を変えるところがある。たいていは、新しい分野の取り組み、新しい科学的解釈の導入、あるいは開館以来変わることがなかった活動主旨の一新、独立法人化等の理由で、館名を変更した。新しいところでは、米デンバー自然史博物館(コロラド州デンバー)がある。同館は、2000年5月8日に、1900年の開館以来の Denver Museum of Natural History から、新しい世紀の博物館として相応しい「Denver Museum of Nature & Science」に館名を変えた。米チャボット天文台・科学館(カリフォルニア州オークランド)も、より広範囲の客層に利用してもらうべく、Chabot Observatory & Science Center から、「Chabot Space & Science Center」に館名を変えた。米デイトン自然史博物館(オハイオ州デイトン)は、より広い科学分野の開拓と新しいスポンサーの名前を冠して、旧来の Dayton Museum of Natural History から「Boonshoft Museum of Discovery」に館名を変えた。一方、いわゆる日本の「独立法人化」に相当する法人経営化になったカナダの国立科学技術博物館(オンタリオ州オタワ)も、National Museum of Science & Technology から「Canada Science & Technology Museum」に館名を変えた。

#### 新しいホームページ

Boonshoft Museum of Discovery Dayton, U.S.A.

[www.boonshoftmuseum.org/](http://www.boonshoftmuseum.org/)

Butterfly Museum La Ceiba, Honduras.

[www.geocities.com/TheTropics/Cabana/7641/](http://www.geocities.com/TheTropics/Cabana/7641/)

Chabot Space & Science Center Oakland, U.S.A.

[www.chabotspace.org](http://www.chabotspace.org)

Eisenbahnmuseum Bochum, Germany.

[www.eisenbahnmuseum-bochum.de/](http://www.eisenbahnmuseum-bochum.de/)

Globenmuseum der Oesterreichischen Nationalbibliothek Wien, Austria.

[www.onb.ac.at/ev/sammlgn/saglfr.htm](http://www.onb.ac.at/ev/sammlgn/saglfr.htm)

Great Explorations St. Petersburg, U.S.A.

[www.greatexplorations.org/](http://www.greatexplorations.org/)

Idaho Museum of Natural History Pocatello, U.S.A.

[www.isu.edu/departments/museum/](http://www.isu.edu/departments/museum/)

Jodrell Bank Science Centre Macclesfield, U.K.

[www.jb.man.ac.uk/scicen/](http://www.jb.man.ac.uk/scicen/)

L.C. Bates Museum Hinckley, U.S.A.

[www.gwh.org/museum.htm](http://www.gwh.org/museum.htm)

Museo de Ciencias Naturales del Duranguesado

Durango, Spain. [www.terra.es/personal/dnzm-mcnd/](http://www.terra.es/personal/dnzm-mcnd/)

Museo de Ciencias Naturales Panama.

[www.pa/cultura/museos/ciencias.htm](http://www.pa/cultura/museos/ciencias.htm)

Museum Industrielle Arbeitswelt Steyr, Austria.

[www.museum-steyr.at/](http://www.museum-steyr.at/)

Museum of Northern Arizona Flagstaff, U.S.A.

[www.musnaz.org/](http://www.musnaz.org/)

Museum of the Rockies Bozeman, U.S.A.

[www.montana.edu/wwwmor/](http://www.montana.edu/wwwmor/)

Naturhistorisches Museum Wien, Austria.

[www.nhm-wien.ac.at/nhm/](http://www.nhm-wien.ac.at/nhm/)

Pathologisches-anatomisches Bundesmuseum

Wien, Austria [www.pathomus.or.at/](http://www.pathomus.or.at/)

Sternwarte Kremsmuenster Kremsmuenster, Austria. <http://members.telecom.at/~stewar/>

Technisches Landesmuseum Schwerin, Germany.

[www.tlm-mv.de/](http://www.tlm-mv.de/)

University of Colorado Museum of Natural History

Boulder, U.S.A. [www.colorado.edu/CUMUSEUM/](http://www.colorado.edu/CUMUSEUM/)

WonderLab Museum of Science, Health and Technology Bloomington, U.S.A. [www.wonderlab.org/](http://www.wonderlab.org/)

\*安井亮事務所: Fax.042-736-5916

E-post:Zakvaran@pop12.odn.ne.jp

# 9月10月の特別展

- 札幌市青少年科学館**  
 青少年のための科学の祭典札幌大会 9月23・24日
- 岩手県立博物館**  
 開館20周年記念特別企画展  
 「北の馬文化」 10月5日～11月26日
- 久慈琥珀博物館**  
 特別展「琥珀アートの世界」 9月23日～11月14日  
 特別企画展「ロシア皇帝秘蔵の琥珀コレクション」  
 10月9日～14日
- 秋田県立博物館**  
 特別展「信仰と美術」（文化庁巡回展） 10月8日～11月5日
- 秋田県立農業科学館**  
 「宇宙の日」作文絵画コンテスト作品展 9月5日～17日
- 秋田大学工学資源学部附属鉱業博物館**  
 「ふしぎ大陸南極展」 10月1日～11月26日
- 工業技術院地質調査所地質標本館**  
 20周年記念特別展  
 「水晶－クリスタルの魅力－」 7月28日～9月29日
- ミュージアムパーク茨城県自然博物館**  
 特別展「蟹の泡ふき エビのつぶやき…その多様性を探る…」  
 7月8日～10月1日  
 「結晶は生きている ー生きものと鉱物のふしぎな関係ー（仮称）」  
 10月21日～1月14日
- 栃木県立博物館**  
 第68回企画展 掘り出された「文字」  
 ー出土文字資料からさぐる古代の下野ー10月8日～12月3日  
 藍染め展 10月8日～12月3日  
 栃木生まれの農作物 10月1日～12月17日
- 群馬県立自然史博物館**  
 特別展「もしもタネがなかったら」 10月7日～12月10日
- 埼玉県立自然史博物館**  
 企画展「自然の調べ方II」 7月1日～9月24日  
 特別展「埼玉の希少野生動物とその仲間」10月7日～12月10日
- 千葉県立中央博物館**  
 特別展「知られざる 極東ロシアの自然ーヒグマ・シベリアトラの大地を旅するー」 9月30日～12月3日  
 生態園トピックス展「自然のなかの小さな発見」  
 9月15日～12月10日
- 千葉県立現代産業科学館**  
 「万国博覧会の夢ー万国博覧会に見る産業技術と日本ー」  
 10月14日～11月30日
- 交通博物館**  
 特別資料展「時をかけるメロディーー鉄道唱歌の100年ー」  
 9月12日～11月12日
- 国立科学博物館**  
 特別展「ダイヤモンド展」 9月9日～11月12日
- 国立科学博物館附属自然教育園**  
 企画展「鳴く虫」 9月3日～10日  
 企画展「森のクラフト」 10月22日～11月23日
- 東京ダイヤモンドミュージアム**  
 「アントワープ・ウィーク」 9月26日～10月3日
- NHK放送博物館**  
 「放送はオリンピックをどう伝えてきたか」9月5日～10月1日  
 「グラフNHK、ステラの表紙に見る放送回顧展」  
 10月3日～11月5日
- 東武博物館**  
 写真が語る東武沿線の今昔展ー北千住～東武動物公園間 なたかしき沿線風景ー 9月19日～11月5日
- 天文博物館 五島プラネタリウム**  
 作品展「プラネタリウム・星・宇宙」 10月1日～11月30日
- 東京都高尾自然科学博物館**  
 企画展「東京に残る原生林」 7月1日～11月26日
- バルテノン多摩**  
 メビウスの卵展多摩展 9月30日～10月15日
- 三菱みなとみらい技術館**  
 特別展示「ひろがる未来！海のテクノロジー大集合」  
 7月25日～11月26日
- 馬の博物館**  
 テーマ展「文明開化と西洋馬文化」 8月1日～9月17日  
 秋季特別展「馬車の東西文明展ー秦始皇帝の銅車馬から明治天皇の御料馬車までー」 9月23日～11月5日
- 横浜こども科学館**  
 巡回展「数学と遊ぼうーかたちと数のワンダーランドー」  
 9月15日～10月9日
- 横須賀市自然・人文博物館**  
 特別展「山を越え、海を渡りー彼方よりはこぼれてきたものー」  
 10月21日～3月25日
- 江ノ島水族館**  
 ミドリガメの仲間たち展 9月1日～30日  
 ブラックバスと仲間たち展 10月1日～31日
- 糸魚川フォッサマグナミュージアム**  
 糸魚川・西頸城の化石展 7月20日～10月1日
- 新潟県立上越科学館**  
 理科自由研究作品展 9月23日～10月9日
- 富山県 立山博物館**  
 特別企画展「石崎光瑤の山ー写しとられた20世紀初頭のインド・ヒマラヤー」 8月12日～10月22日
- 立山カルデラ砂防博物館**  
 企画展「立山登山案内図と立山カルデラ」8月1日～9月27日
- 富山市科学文化センター**  
 2000年とやま国体特別展「これが富山の自然だ」10月8日～31日
- のとじま水族館**  
 特別展「うに、ひとで、なまこ……」～棘皮動物の不思議な世界～ 10月1日～11月30日
- 山梨県立科学館**  
 科学工作展 9月23日～10月7日  
 科学写真作品展 9月23日～10月7日
- 信州新町化石博物館**  
 特別展「アンモナイトの世界ー白亜紀の海にすんでいたアンモナイトー」 7月29日～11月12日



**岐阜県博物館**

秋季特別展「すばらしき東濃の自然、再発見～巨大ヒノキが見てきた生き物たち～」 9月23日～11月26日

**中津川市鉱物博物館**

第4回企画展「長島鉱物コレクション展—希元素鉱物への探求」 9月23日～12月10日

**東海大学自然史博物館**

特別展「掛川の化石—プランクトンからクジラの化石まで—(仮称)」 10月1日～11月30日

**豊橋市自然史博物館**

第15回特別企画展「おもしろ化石大百科」7月14日～9月17日  
収蔵資料紹介展「赤トンボ」 8月26日～11月5日

**産業技術記念館**

特別展「自動車のボデー展(仮称)」 10月3日～11月12日

**トヨタ博物館**

企画展「クルマとアート 岡本三紀夫の世界」 8月8日～9月24日  
特別展「夢のクルマ大集合」(仮) 10月上旬～12月上旬

**博物館明治村**

特別展「大馬車展 ～馬車のすべて～」 9月9日～11月26日

**滋賀県立琵琶湖博物館**

企画展示「湖の魚・漁・食・淡海あれこれ商店街」 7月15日～11月23日  
水族企画展示「琵琶湖と大陸をむすぶさかなたち」 10月21日～1月28日

**大阪市立自然史博物館**

特別展「干潟の自然」 7月20日～9月24日

**きしわだ自然資料館**

2000年特別展「里山昆虫記」 10月17日～12月24日

**伊丹市昆虫館**

特別展「かくなりたい・めだちたい・擬態」7月19日～10月9日

**鳥取県立博物館**

特別展「現代中国の美術—中国第9回全国美術展受賞優秀作品による—」 11月3日～12月3日

**倉敷市立自然史博物館**

秋の鳴く虫展 9月3日～17日  
植物写真展 10月14日～12月3日

**さじアストロパーク・佐治天文台**

特別展示「科学遊園」 8月3日～9月27日

**広島市こども文化科学館**

地図ならびに地理作品展 9月15日～30日  
科学研究作品展 10月20日～31日

**防府市青少年科学館**

「サイエンスワンダーランド」 10月20日～12月10日

**徳島県立博物館**

第2回企画展「侵入者たち—外国からやってきた生きものたちの光と影—」 7月18日～9月10日  
第3回企画展「世紀末大博覧会」 10月20日～11月26日

**佐賀県立博物館**

30周年記念展「佐賀2000年—名宝の旅—」10月27日～12月3日

**長崎県立美術博物館**

開館35周年 館蔵名品展 9月29日～10月15日

**鹿児島県立博物館**

企画展「鹿児島島の森の王様どんドラ」9月29日～11月5日

# 歴史体感

ロボットが誘う、歴史伝説の世界

伝統文化の保存と伝承を目的とした施設、建設にも積極的に参加しております。



◀閃光に驚き、バランスを失う武士たち。



▲刀が振り下ろされるその瞬間、目が眩むばかりの閃光が走る。

佐渡歴史伝説館/日蓮聖人 佐渡法難

文化施設・商業施設・動刻・ディスプレイ・デザイン・設計・制御演出・施工



〒197-8556 東京都あきる野市二宮東1丁目1番地26  
TEL 042-559-9551(代) FAX 042-559-9898

株式会社 **ココロ**

# 平成12年度第1回総会開催

平成12年6月29日（木）から30日（金）の間、国立科学博物館において、平成12年度第1回全科協総会等を開催しました。第1回総会では、「平成11年度事業報告」「平成11年度収支決算報告」について審議され、それぞれ承認されました。（総会出席館80館、委任状提出館165館）

## 加盟館園の状況

### 1. 館園数

平成12年6月29日現在

区 分	平成11年度 第2回総会時 (12年3月14日)	平成12年度 第1回総会時 (12年6月29日)	内 訳		増減
			入会	退会	
正会員	250	255	7	2	5
購読会員	21	21	1	1	0
維持会員	31	28	0	3	△3
計	302	304	8	6	2

### 2. 入退会館園

平成12年3月14日～平成12年6月28日

区 分	館 園 名	種 別	備 考
入 会	信州新町化石博物館	正 会 員	信州新町
	さじアストロパーク・佐治天文台	正 会 員	佐 治 村
	産業技術記念館	正 会 員	株式会社
	みなくち子どもの森	正 会 員	水口町
	日本工業大学 工業技術博物館	正 会 員	学校法人
	徳島県商工労働部交流推進局事業企画課	正 会 員	徳 島 県
退 会	のとじま臨海公園 水族館	正 会 員	能登島町
	山下 和子	購読会員	個 人
	松戸市文化ホール	正 会 員	事業移管 事業目的の変更
	ゴールドパーク串木野	正 会 員	
	加古川総合文化センター	講読会員	
	㈱大林組	維持会員	
㈱セキヤクリエイティブ	維持会員		
㈱ユニコーン・インターナショナル	維持会員		

### 3. 正会員の設置者別内訳

設 置 者		館園数 (%) 平成11年度 第2回総会時	館園数 (%) 平成12年度 第1回総会時	増減
国 公	1 国	7 (2.8)	7 (2.7)	0
	2 都道府県	53 (21.2)	54 (21.2)	1
	3 市町村	100 (40.0)	104 (40.8)	4
私	4 財団法人	30 (12.0)	30 (11.7)	0
	5 株式会社	41 (16.4)	40 (15.7)	△1
	6 個人	2 (0.8)	2 (0.8)	0
	7 社団法人	2 (0.8)	2 (0.8)	0
8 その他		15 (6.0)	16 (6.3)	1
計		250 (100.0)	255 (100.0)	5

## 平成11年度事業報告

### 1. 管理運営

事 項	内 容
第1回理事会	期 日 平成11年6月30日（水） 会 場 国立科学博物館 出席館 16館
第1回総会	期 日 平成11年6月30日（水） 会 場 国立科学博物館 出席館 82館（委任状提出館150館） 記念講演 講演者 秋山仁東海大学教育開発研究所教授 演 題 「賢治流教育法」 施設見学 期 日 平成11年7月1日（木） 施 設 国立科学博物館
第2回理事会	期 日 平成12年3月14日（火） 会 場 名古屋市科学館（愛知県名古屋市） 出席館 13館（委任状提出館3館）
第2回総会	期 日 平成12年3月14日（火） 会 場 名古屋市科学館（愛知県名古屋市） 出席館 79館（委任状提出館140館）

### 2. 事 業

#### (1) 研修事業

博物館職員現職研修（ミュージアム・マネージメント研修）	期 間 平成12年2月28日（月）～3月3日（金） 共 催 国立科学博物館 後 援 JMMA 協 力 東京大学大学院教育研究科 参 加 者 49人
学芸員専門研修（アドバンス・コース）	期 間 平成11年10月25日（月）～29日（金） 共 催 国立科学博物館 参 加 者 24人
海外科学系博物館視察研修	期 間 平成12年1月11日（火）～1月24日（月） 訪 問 館 レオナルド・ダ・ビンチ記念国立科学技術館（ミラノ）、スペイン国立自然史博物館（マドリッド）、産業技術博物館（マンチェスター）、国立鉄道博物館（ヨーク）、大英自然史博物館（ロンドン）、大英科学博物館（ロンドン） 参 加 者 25人

#### (2) 連携促進事業

研究発表大会	期 間 平成12年3月15日（水） 会 場 名古屋市科学館（愛知県名古屋市） 後 援 文部省、名古屋市教育委員会 参 加 者 約150人 基調講演 演 題 科学系博物館を中心とした環境学習ネットワークの構築について
--------	---

	<p>講演者 ミュージアムパーク茨城県自然博物館館長 中川志郎氏</p> <p>基調講演 演 題 ネットワーク世界における科学系博物館の役割</p> <p>講演者 米国エクспロラトリウム副館長 ロバート J. センパー氏</p> <p>研究発表 「生涯学習社会における科学系博物館ネットワークの役割」をテーマに11名から発表があった。 施設見学 3月16日(木) 10:00~12:00 トヨタ博物館、産業技術記念館</p>
共同企画展等調査研究	<p>委員会の開催 第1回 平成12年3月3日(金) 国立科学博物館</p>
科学系博物館における標本資料データベースの標準化に関する調査研究	<p>調査研究委員会の開催 第1回平成11年9月7日(火)国立科学博物館 第2回平成12年3月30日(木)国立科学博物館</p>
事業に対する共催・後援等	<p>加盟館園や関係機関等が実施する事業で、全科協の設置目的に適合し、適当と認められた8事業に対し共催・後援等を行った。</p>

<p>発・高度化支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学系博物館におけるホームページ作成・活用の手引きの作成</li> <li>・ホームページのリニューアル</li> <li>・博物館情報データベース機能の改善</li> <li>・メーリングリスト運用及び情報交換機能の改善</li> <li>・サーバーの運用管理と機能強化</li> <li>・ホームページ活用研修会の実施</li> </ul> <p>③博物館ネットワークに関する国際シンポジウムの開催</p> <p>わが国と諸外国の博物館におけるネットワーク活動などの実体を比較するとともに、学校教育等とのネットワークなど今後強化を図るべき博物館活動等について考案する。平成12年3月の研究発表大会において本国際シンポジウムを実施した。</p>
--

(3) 広報普及事業

機関誌の発行	<p>「全科協ニュース」を年6回編集発行した。(A4判 12頁程度 各号の発行部数1,400部 奇数月発行)</p>
入会案内及び広報活動	<p>新設の科学系博物館等に対し、入会の勧誘を行ったほか、全科協の活動について、広く広報を行った。また、インターネット上に立ち上げた全科協ホームページの充実を図り、加盟館園相互情報流通を促進するとともに一般への全科協加盟館園の情報提供活動を行った。</p>

(4) 文部省委嘱事業

科学系博物館活用ネットワーク推進事業	<p>①巡回展の開発・運営事業</p> <p>全科協が中心となり、研究機関など関連機関と「科学系博物館ネットワーク活動推進協議会」を組織し、平成9年度から3カ年計画で巡回展の開発運営モデル事業を実施している。実行委員会は全科協共同企画展等調査研究委員会が兼ね、その下に制作ワーキンググループを設置し事業を実施した。</p> <p>「ふしぎ大陸 南極展」実施 7館</p> <p>「数学と遊ぼうーかたちと数のワンダーランドー」実施 5館</p> <p>「すばる望遠鏡ー宇宙を探る新しい眼ー」試作研究、企画及び展示制作、実施 3館</p> <p>②科学系博物館ホームページの総合的な開</p>
--------------------	--

〈記念講演〉

講演者 林 容子 アートウッズ主宰 尚美学園大学助教授  
演 題 「21世紀に向けたミュージアム運営」

講演要旨

1 英米の博物館、美術館では民営化が進んでおり、物価上昇率を考慮すると国の補助が年々減ってきていることから、自助努力による経営努力がさまざまな方法で行われている。

ホールのパーティー等への貸し出しはもちろんのこと、売店、食堂は委託ではなく、収益が上がる部分は独自に経営しているところが殆どである。

スミソニアン博物館の鉱物・宝石ギャラリーのオープニングでは展示会場でイブニングパーティーを開催し、ライトアップなど演出に趣向が凝らされていた。

2 民間との協力を行う上でも、資金を得るのみではなく、対等のパートナーとして扱っている。民間企業の期待に応える来館者数の確保のため、顧客側の関心に注意を払うことが重要である。例えば科学の分野と一般人が興味を持つ歴史、芸術といった分野も含めた学際的な展示などの工夫がなされている。

3 友の会のランクによる差別化を図り、寄付金によってサービスが異なるなどの試みがなされている。また、時間制チケット、開園時間の深夜に及ぶ延長など来館者を意識した便宜が図られている。また、大口の篤志家については、玄関に氏名を記して紹介している。

4 エンタテイメント性の高い展覧会は数年にもわたって各地を巡回させており、収益をあげている。たとえばスミソニアン博物館の「スパイダー」はアニメーションを活用した展示で非常に人気がある。また、日本とは違い、子供だけではなく大人をも対象としたインタラクティブな展示が見受けられる。

5 また、来館者に対するおもてなしの姿勢が大事であり、経営者等の顔が見えるようにすることが必要である。河口



湖の「オルゴールの森美術館」では地域住民を巻き込んだ営業努力が効を奏し、好調に運営されている。また、同館ではショップ、レストランの動線も重視し、収益があがるようにしている。

〈施設見学〉

6月30日には、千葉県立現代産業科学館において、常設展示の他、巡回展「数学と遊ぼう」の見学を行いました。

全科協ニュース編集委員会

NHK放送博物館	チーフディレクター	河野光子
滋賀県立琵琶湖博物館	展示科長	高橋啓一
ミュージアムパーク茨城県自然史博物館	資料課長	都賀和男
国立科学博物館	普及部 普及課長	佐藤兆昭
国立科学博物館	普及部 普及課専門職	原田紀子

全科協事務局

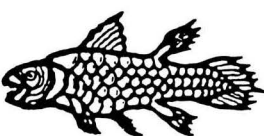
国立科学博物館普及部普及課 森田 淳 鈴木千絵  
 Tel.03-5814-9857・9858 Fax.03-5814-9898

発行日 平成12年9月1日  
 発行 全国科学博物館協議会©  
 〒110-8718 台東区上野公園7-20 国立科学博物館内  
 印刷 島崎印刷株式会社

美術

# はく製

〈各種生物〉  
 剥製・骨格標本・レプリカ  
 加工/販売/リース



有限会社 東洋近代美術研究所

製作所 〒272-0816 千葉県市川市本北方2-18-1 直通 ☎047-337-5678  
 ☎047-337-5883  
 FAX 047-338-1978  
 本社 〒272-0834 千葉県市川市国分5-3-25 ☎047-374-1564

TOKYO SCIENCE CO., LTD.

## ミュージアム・ショップ向/教育用地学標本

地学標本(化石・鉱物・岩石)  
 古生物関係模型(レプリカ)

大英博物館/恐竜復元模型

●常設ショールーム: 紀伊國屋書店・新宿本店1F TEL.03(3354)0131(代表)



since 1974

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル  
 TEL.03(3350)6725 FAX.03(3350)6745  
 E-mail: science@oak.ocn.ne.jp

調査・企画・デザイン・設計・製作・施工・  
 監理・運営およびコンサルティング・プロデュース

より良い「社会交流空間づくり」にむけて…

# 株式会社 丹青社

〒110-0005 東京都台東区上野5-2-2 TEL 03-3836-7221(代表)  
 札幌・仙台・新潟・名古屋・大阪・鳥取・福岡  
 URL <http://www.tanseisha.co.jp>

## めざすのは「小宇宙」の実現です。

# NOMURA

株式会社 乃村工藝社

本社/東京都港区芝浦4-6-4 〒108-8565 電話03-3455-1171代  
 ホームページ <http://www.nomurakougei.co.jp>

ディスプレイおよび建築の調査・コンサルティング・  
 企画・設計・デザイン・プロデュース・演出・制作施工

INTERIOR/EXTERIOR/DESIGN/EQUIPMENT

# ONY KOBO CO.,LTD.

東京都千代田区神田神保町2-7-3シグマ神保町4階  
 TEL (03) 3221-1102代 FAX (03) 3221-1185



動物園/水族館/博物館  
 企画・設計・施工



# COLORATA.

## ミュージアムグッズの企画・制作・販売・輸入

カロラータ株式会社

本社・企画室 〒111-0053 東京都台東区浅草橋4-6-8 西澤ビル  
 TEL.03-3865-8110 FAX.03-3864-4049

営業部・商品管理部 〒136-0072 東京都江東区大島2-13-11  
 TEL.03-3684 8311 FAX.03-3864-8310